

14. 都市公園を活用した地域による子育て支援

～都市公園の整備と子育て支援事業の組合せ～

新潟県長岡市 子育ての駅千秋（愛称：てくてく）

解決すべき課題

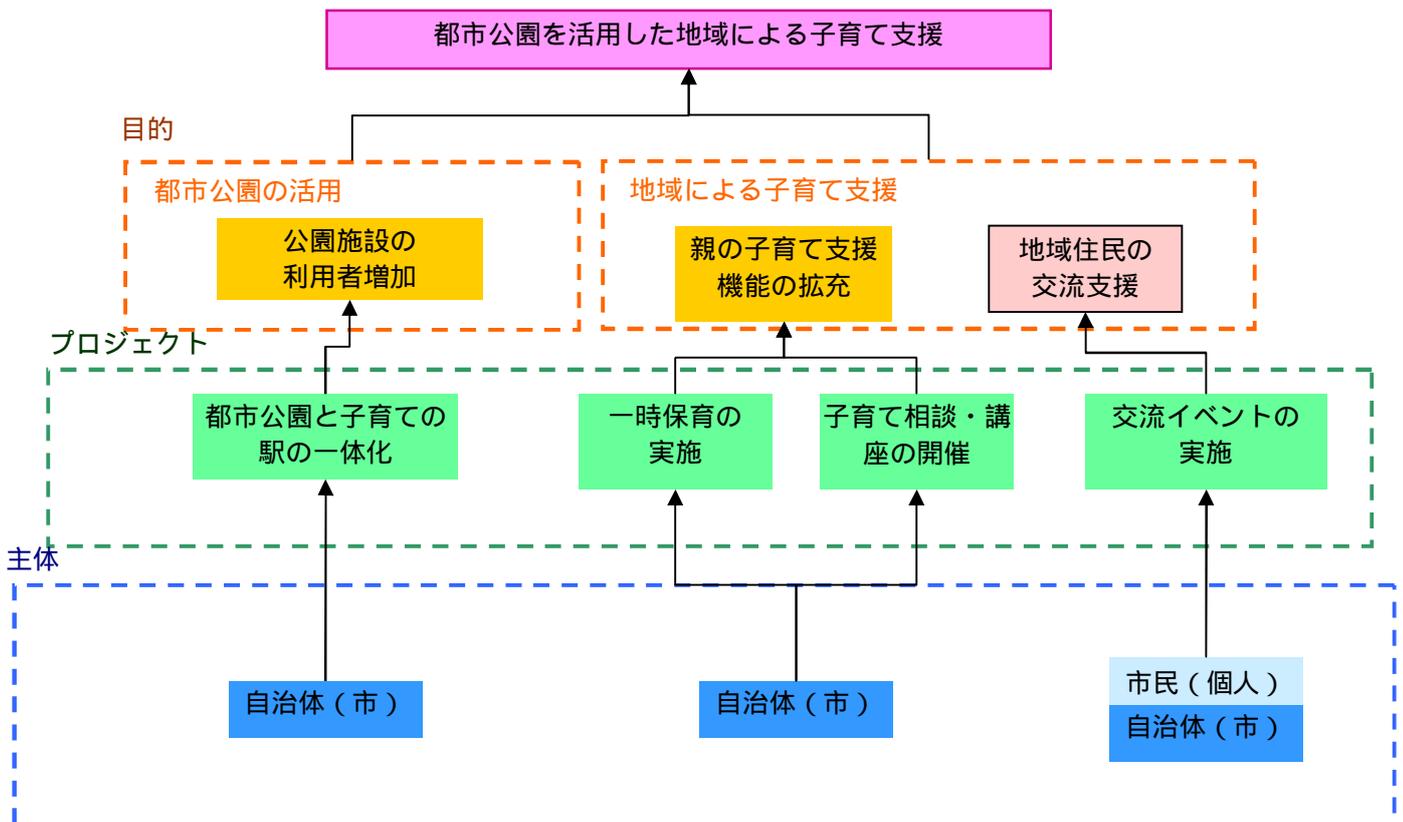
経済	商工業の振興
	農林業の振興
	観光の振興
経済・社会	雇用の確保
	中心市街地の活性化
社会	定住人口の増加
	アクセシビリティの向上
	地域の荒廃の抑制
環境	環境負荷の低減

事業概要

長岡市は雪国の子どもたちに冬でも遊べる場所を確保するため、都市公園の中に全天候型屋根付き施設を整備した。

施設には、保育士を常駐させ子育て相談の場を設けるなど、親の子育てや親同士の交流を支援する機能を付加しており、2009年（平成21年）5月の開設以来、親子連れの利用者で賑わいを見せている。

プロジェクトパッケージの構造図



プロジェクトの背景

長岡市は雪国であるため、冬場の子どもの遊び場が少ないという声が多かった。また、2001年（平成13年）に開設した「ちびっこ広場」での子育て支援の取り組みが好評であったことから、市民のニーズ調査を行い、子育て相談や親同士の交流の場が求められていることがわかった。

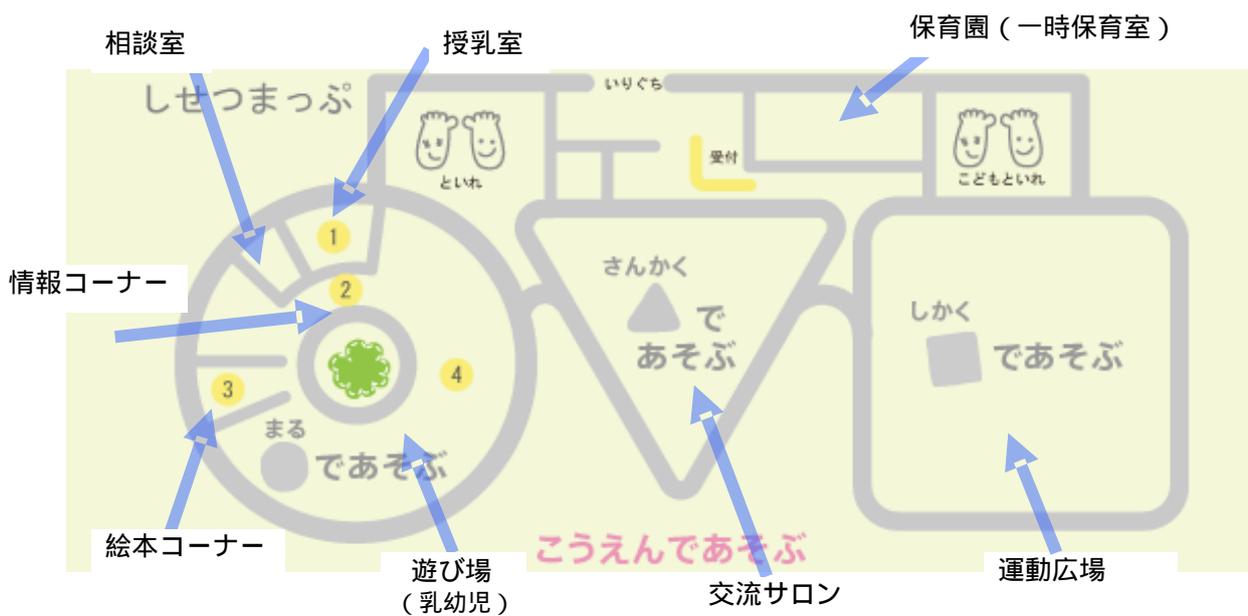
市は2004年（平成16年）子育て支援機能を兼ね備えた全天候型屋根付き施設の整備方針（「こども王国」基本構想）を固め、別途整備することとなっていた千秋が原南公園内に屋根付き施設を整備することとした。

本事例における「パッケージ化」

地域の子どもの遊び場を確保し子育て支援の充実を図るため、都市公園施設の整備と子育て支援事業とを組合せた。

都市公園事業と子育て支援事業という他分野の組み合わせにより、「親子にとって居心地の良い施設」が実現し、利用が増えるという相乗効果を生んでいる。

【子育ての駅千秋 施設マップ】



（長岡市 HP 掲載資料より作成）

(1) プロジェクトの内容

都市公園と子育ての駅¹の一体化

冬期の子ども遊び場を確保するため、2004年（平成16年）に策定した「こども王国基本構想」に基づき、信濃川に隣接する地域に千秋が原南公園と全天候型屋根付き施設「子育ての駅千秋（愛称：てくてく）」を整備した（2009年5月オープン）。公園および公園内施設は都市公園事業（国1/2補助）の適用を受けており、総事業費は約6億9千万円（うち子育ての駅関係の施設約4億4千万円）である。



写真1：子育ての駅外観（長岡市提供）

公園の規模は、全体面積が20,476㎡、子育ての駅の施設の面積が約1,280㎡である。



写真2：運動広場の様子（長岡市提供）

施設内には、運動広場、交流サロン、絵本コーナー、赤ちゃんコーナー、相談室、情報コーナー、授乳室、一時保育室が整備されている。

施設は「まる」・「さんかく」・「しかく」の3つの部分に分かれており、中央の「さんかく」を交流サロンとすることによって、親がくつろぎながら周辺で子供が遊べるように配慮されている。

また、公園にも滑り台などの遊具や砂場、水遊び場などが配置され、天気の良い日は中でも外でも遊べるように工夫されている。

なお、施設の内容については、公募の市民、学識経験者、子育て関係者が参加する検討委員会を設置し、2006年（平成18年）から2年かけて検討が行われた。また、施設のデザインは長岡造形大学の協力を得て作成された。

一時保育の実施

親に対する子育て支援機能の充実を図るため、施設内に「せんしゅう保育園」を設置し、一時保育室を運営している。生後6か月から就学前の子どもを対象として、利用料は1時間300円（30分150円）である（最長8時間・事前予約制）。



写真3：絵本コーナーの様子
（長岡市提供）

¹ 長岡市が整備を進めている、子育て支援機能を有する屋内型施設。子どもを中心として多世代が集い育ち合うプラットフォームのような場所、という意味が込められている。

周辺の病院やショッピングセンターに出かける際に一時保育を利用することができるため、利用者からは好評であり、利用率も高い。

子育て相談・講座の開催

子育てに関する悩みを抱える親からの相談に応えるため、親と相談員とが一緒に考える場を設けている。相談員は、家庭児童相談員のほか、保健師、助産師、栄養士、先輩ママなどにもお願いし、月4回程度（1回あたり1時間）実施している。

また、保育士を常時6名程度配置しており、随時、施設利用者からの相談に応じるなどの支援、見守り機能を発揮している。

また、子育てについての知識を深めてもらうため、図書館司書、歯科衛生士、言語聴覚士など多彩な講師による「子育て講座」を開催しているほか、冊子、ポスター、チラシ等で告知する「情報コーナー」を設置し、子育て情報の提供を行っている。

交流イベントの実施

子育て中の親同士の交流を深めるため、誕生会やおしゃべり会、さつま芋の栽培体験などのイベント等を企画し、親同士の友達づくりの場を提供している。

イベントなどの交流事業の内容については、市民からの公募委員10名程度で構成する「子育ての駅運営委員会」を設置し、企画内容から実際の運営方法までの検討を行っている。委員の任期は1年で、年6回程度開催される。

また、施設の管理・運営に協力するボランティア「子育ての駅サポーター」を随時募集、登録している。2010年（平成22年）2月現在で36名が登録しており、子育て、福祉、国際交流、園芸、自然体験、絵本の読み聞かせ、楽器演奏などそれぞれの特技を生かして活動を行っている。



写真4：交流サロンで行われた子育て講座の様子（長岡市提供）



写真5：イベント 誕生会の様子（長岡市提供）



写真6：イベント さつま芋収穫の様子（長岡市提供）

(2) 効果

施設の利用者増加

施設は都市公園内に併設することによって、利用者にとって長時間滞在できる過ごしやすい施設となった。本施設の利用者は、開設以来約4か月で10万人を突破し、1日平均623名の利用者が訪れているなど好評を博している。

図表 施設利用者数及び1日平均利用者の推移(人)

	2009年								2010年		計
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
利用者数	28,655	21,277	22,856	20,464	14,727	13,366	9,918	7,115	10,674	11,751	160,803
1日平均	1,194	818	879	758	566	495	381	274	411	490	623

計:「利用者数」は2009年5~2010年2月の累計、「1日平均」は同期間の利用者数の1日平均

9月7日累計利用者
10万人突破

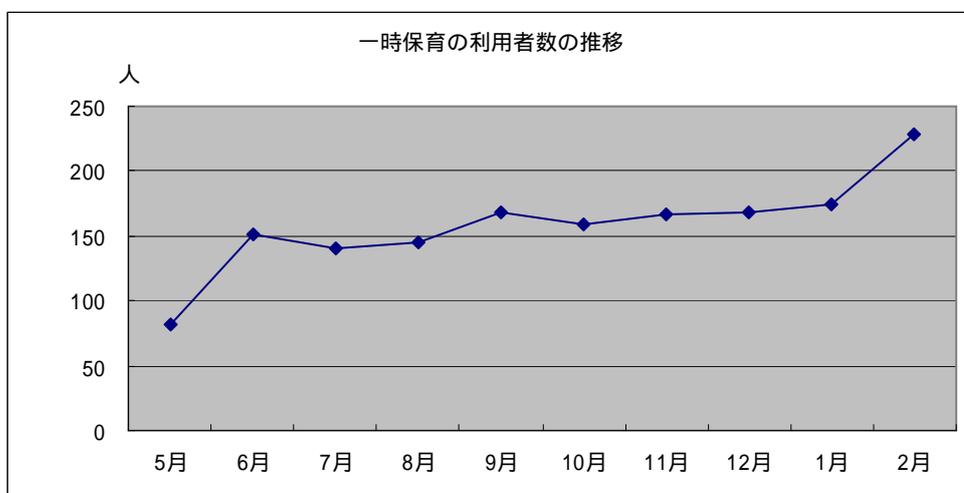
出典:長岡市調査

親の子育て支援機能の拡充

一時保育室の開設や子育て相談・講座の実施などは、親の子育て中の時間の確保や知識習得の面で大きな支えとなっており、地域の子育て支援機能の向上につながっている。

図表 一時保育及び子育て相談事業の利用者数の推移(人)

	2009年								2010年		累計
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
一時保育	82	152	141	145	168	159	166	168	174	228	1,583
相談事業	9	13	5	5	17	13	6	7	6	10	91



出典:長岡市調査

地域住民の交流支援

市民ボランティアの参加による交流イベントを実施することにより、親同士や地域住民との交流の機会が広がっている。

図表 交流イベント参加者数の推移（人）

	2009年								2010年		累計
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
参加者数	738	665	4,165	949	712	667	836	707	652	1,234	11,325

出典：長岡市調査

(3) 成功要因

「こども王国基本構想」に基づく分野横断的な取り組み

公園と子育て支援という異なる分野の事業を一体的に推進するため、市長のリーダーシップのもと「こども王国基本構想」を策定し、整備方針を明確にしたことが、その後の庁内における円滑な事業実施を可能にした。

市民のニーズの把握に基づいた発想

「冬場の子ども遊び場がほしい」というニーズに加え、子育て支援機能に対するニーズが高いことを現場での取り組みや市民へのヒアリング調査などから把握し、企画立案に反映させたことが、市民に喜ばれる施設の実現につながった。また、施設の中身の検討に当たり市民参加による検討会を設置したことも、市民ニーズを反映するのに効果的であった。

(4) 今後の課題

市は、「こども王国基本構想」に基づき、さらに2か所の子育ての駅の開設を2010年度（平成22年度）に予定している。開設により、子育ての駅千秋の利用状況にも影響を与えられ、今後の推移を見守る必要がある。

公園については、子育て支援施設が併設されていることから、子ども連れ以外の方が利用しづらい印象を持たれるが、多世代交流の場として誰でも利用できる開かれた公園として運営を進める必要がある。

交流イベントなどの運営には「子育ての駅サポーター」の協力が必要だが、次代の親になる若い世代に参加してもらうことが今後の課題である。

関係リンク先

長岡市 子育ての駅千秋ホームページ

http://www.city.nagaoka.niigata.jp/kosodate/k_eki/tekuteku.html